

祭りと並ぶ一大イベントだった

札幌農学校の遊戯会

春の恒例行事として、学生だけでなく市民の気も集めた遊戯会を紹介します。

遊戯会が初めて開催されたのは明治十一年（一八七八年）。現在の北一西四付近が会場となりました。遊戯とはスポーツのことで、この催しは札幌における運動会の元祖となるものでした。

昭和八年発刊の「恵迪寮史」には、「百碼電奔（やくま）約九十一（び）」や「一哩（マイル）競争（競争）約一・六（キロ）」などの短・長距離走のほか、「疾走幅跳（はやくま）」や「疾走高跳（はやくま）」といったフィールド競技が行われたと記録されています。また、イモ拾い競走や二人三脚などの余興風の種目もありました。

初めのころは、新渡戸稲造（にわた）や宮部金吾（みやべ）吾、内村鑑三（うちむら）なども選手として活躍しました。新渡戸については「・・・運動会・遊戯会の時には相当活発に活動し特にハイジャンプ、ロングジャンプ、サックレース（袋に入って行う競走）等が得意でいつも一等を取っ

ていた」と伝えられています。

この遊戯会は年を追うごとに盛大になり、娯楽の乏しい当時は札幌祭りと並ぶ名物行事とまで言われました。会場には屋台が軒を連ね、応援歌を奏でる楽隊も

登場、さらには市内の女学校が休校になるほどの熱狂ぶりです。来賓に招かれることは札幌の名士としての箔（はく）がつく大変名誉なことでした。

その後、大正十一年（一九二二年）を最後に遊戯会は幕を閉じましたが、同校の陸上競技部にその伝統は引き継がれました。また、各種競技の記録データが明治期から大正期にかけての日本青年の体力データとして活用され、多くの学校が遊戯会にならって運動会を始めるなど、後の学校体育にも大きな影響を与えました。



明治34年の農学校創立25年記念遊戯会
（札幌市教育委員会文化資料室所蔵）

（平成十三年一月号・第七十四回）